

# 1. 平成28年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△41.4ポイントで、前期(1～3月期)の△39.4ポイントから2ポイントマイナスとなり、昨年同時期と比べ17.6ポイントマイナスと4期連続でマイナスが続いている。今期は特に小売業でのマイナスが大きいが、卸売業では来期の見通しが大幅に改善される見込みであるなど、業種によって大きく差が出ている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 64 (△ 18) 	△ 29 (△ 45) 	△ 25 (△ 26) 	△ 9 (△ 24) 	△ 22 (△ 25) 	25 (△ 50) 	△ 67 (△ 45) 	△ 45 (△ 57) 	△ 47 (△ 52) 	△ 47 (△ 6) 
採算		△ 57 (△ 40) 	△ 36 (△ 80) 	△ 39 (△ 29) 	△ 9 (△ 27) 	△ 22 (△ 25) 	0 (△ 25) 	△ 59 (△ 36) 	△ 41 (△ 57) 	△ 41 (△ 55) 	△ 41 (△ 39) 
資金繰り		△ 43 (△ 27) 	△ 23 (△ 36) 	△ 11 (△ 13) 	△ 10 (△ 24) 	△ 22 (△ 25) 	△ 13 (△ 13) 	△ 33 (△ 27) 	△ 33 (△ 32) 	△ 24 (△ 37) 	△ 18 (△ 17) 
業況		△ 43 (△ 55) 	△ 8 (△ 60) 	△ 22 (△ 27) 	△ 3 (△ 31) 	△ 33 (△ 43) 	12 (△ 29) 	△ 62 (△ 27) 	△ 44 (△ 38) 	△ 47 (△ 45) 	△ 38 (△ 35) 
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
	2位	民間需要の停滞		従業員の確保難		店舗・倉庫の狭隘・老朽化		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下		製品ニーズの変化への対応		大企業の進出による競争の激化		購買力の他地域への流出		大企業の進出による競争の激化	
業種別 コメント		官公、民間需要停滞から、今期状況は各項目とも大幅なマイナスとなっている。来期については、前年同期と比較し、同等または受注微増から若干プラスに転じる見込みとなっている。経営上の問題点は材料仕入の上昇、経常利益の減少が挙げられ、資金繰り確保に注意が必要である。		今期状況は前期と比べ大きな差はない。来期は、材料仕入単価に落ち着きが見られる。また、売上上昇と利益好転による回復が見込まれるが、仕入、在庫管理に注意が必要である。今後の課題として、生産設備の不足・老朽化を問題視する事業所が多くなり、実際、今期、来期ともに設備投資の実施、計画が増えている。		今期状況は横ばいだが、来期は仕入単価の落ち着きに加え、受注増が見込まれ大幅に回復する見込みである。売上は前期比で75ポイント上昇。需要の停滞や、店舗・倉庫の狭隘・老朽化といったいずれの業種にも共通した問題点を挙げている。		新年度に入り、通常なら需要が見込める時期だが、業況が前期比でマイナス35ポイント悪化している。需要が停滞する中、消費者ニーズへの対応を課題とする事業所が急増し、独自の顧客サービスや商品構成が求められる。		業況は今期、来期とも業況は横ばいだが、売上の見通しは前期比でマイナス41ポイントで、消費税増税が先送りされたとはいえ厳しい状況である。消費税をはじめとする各種税金や、社会保険等の福利厚生費が負担になっているという声もあり、資金繰りが大きな課題となっている。	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD・I値